

令和3(2021)年度 文化庁委託調査研究事業報告書
文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～



一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

目 次

- 第1章 本事業の概要と実施状況
- 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施
- 第3章 脚本現物のデジタル化について
- 第4章 目録の作成及びデータベース公開について
- 第5章 大学機関との連携研究
- 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究
- 第7章 検討委員会
- 第8章 シンポジウム等のイベント
- 第9章 デジタル脚本ミュージアム構想

第1章 本事業の概要と実施状況

1. 事業名

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
 ～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～

2. 目的

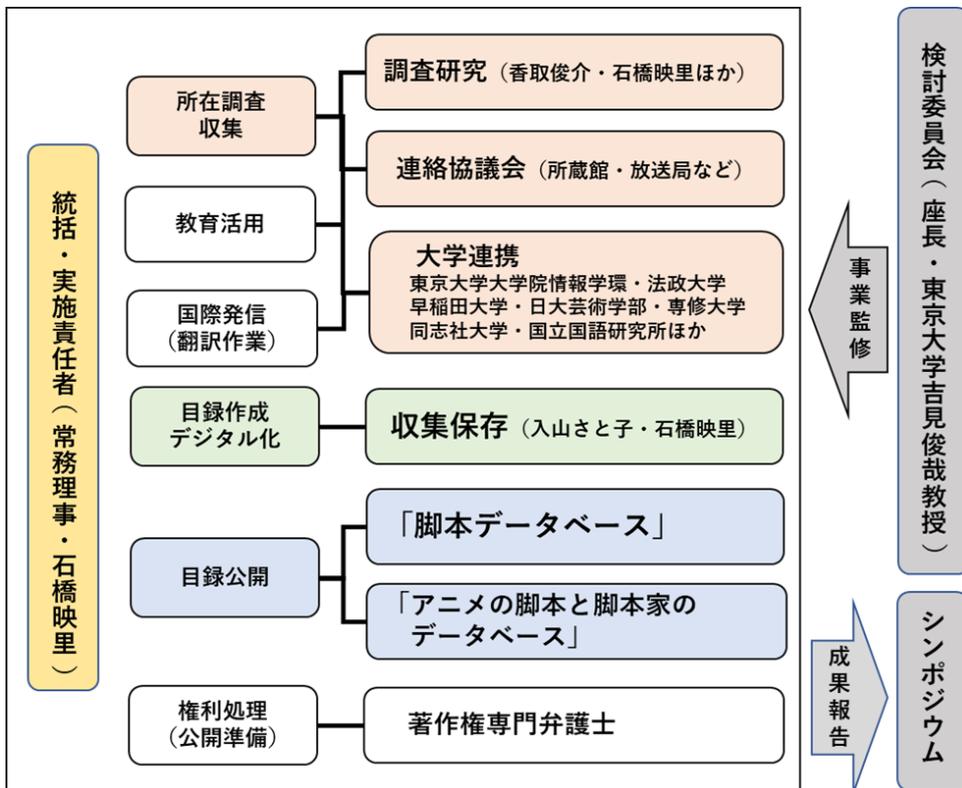
歴史的・文化的価値のある放送（テレビ・ラジオ番組）の貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないように、資料の保存及び活用を図ると共に、デジタルアーカイブ構築推進を目的とした調査研究を行う。

3. 事業期間

令和3(2021)年4月1日～令和4(2022)年3月31日

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する	脚本収集、書誌入力随時											
2 目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究)	目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究)											
3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究	放送博物館、早稲田演劇博物館、日本動画協会											
4 委員会の開催、シンポジウム	理事会、検討委員会分科会、検討委員会、検討委員会、理事会、シンポジウム、検討委員会分科会											

4. 実施体制



5. 2022年度の研究調査事業概要

5.1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究(脚本現物資料の研究)

①脚本の所蔵調査および収集の実施

2022年3月現在、収集した脚本資料は113,463冊（うち今年度の収集実績は4,077冊）。次年度の公的機関への第二期寄贈を目指し1980年以前の脚本3万冊を目標として整理調整を行うため、新規寄贈受入れは2022年2月末の期限を設けた。著作権管理団体（日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会）を通じ、収集は寄贈が完了するまでの間、休止することを告知。またHPでも収集期限について案内したため、駆け込み寄贈がいくつか見られた。

2019年の台風被害により除却が決まった川崎市市民ミュージアムに所蔵の脚本約2万6千点は、無事に川崎市市民プラザへ移管を終えた。

【脚本の内訳・移管先】

分類	寄贈・移管先	現在の総計	R3年度	H17～R2年度
1980年以前の放送（移管済）	国立国会図書館	27,219		
1980年以前の放送脚本	住友倉庫保管	32,114	2,040	30,074
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム（市内施設保管中）	27,870	1,786	26,084
映画シナリオ	国立映画アーカイブ(705冊倉庫保管)	2,878	109	2,769
演劇台本	早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館(1858冊倉庫保管)	1,858	70	1,788
生原稿（世田谷由来の作家のみ）	世田谷文学館	91		91
生原稿（NHK放送分）	倉庫保管（NHK放送博物館と交渉中）	434		434
アニメ	倉庫保管、未入力分は法政多摩校舎	9,888	62	9,826
個人情報資料など	川崎市市民ミュージアム保管	100		100
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管（移管先未定）	421		421
複本	法政大学多摩校舎倉庫保管中	5,388	10	5,378
複本等（年1000冊を目標に移管予定）	国際日本文化研究センター（複本980冊移管）	1,788		808
複本	寄贈元放送ライブラリーへ返却	2,103		2,103
NHK放送の複本	NHKアーカイブスへ返却	633		633
劣化、個人資料など	返却・廃棄	678		678
	総計	113,463	4,077	

②大学、その他資料館の所蔵把握（収集を前提としない資料）

2018年に行った大学図書館への脚本所蔵調査アンケートの成果として、東京音楽大学から300冊近い貴重な台本を受け入れることができた。

またNHK放送博物館、早稲田大学演劇博物館へ再度ヒヤリングを行い、書誌データの連携について検討を始めた。アニメ資料について、日本動画協会のアーカイブ事業の実施場所を見

学し、資料状況などの情報共有を行った。

③放送局（特に民間放送）・制作会社等（収集を前提としない資料）

放送局等に所蔵されている脚本の保存状態や管理について質問事項を提示し情報共有の依頼を行った。

②脚本現物のデジタル化について

■収集した脚本資料の目録作成

- ・収集した脚本資料の書誌入力を実施。次年度国会図書館への移管対象となる 1980 年以前の脚本を優先して実施した。
- ・代表作については、あらすじを順次作成。日本放送作家協会所属の脚本家が担当した。
- ・国際発信を視野に、書誌情報はローマ字表記を行い脚本データベースの英語版に掲載した。アニメ脚本のあらすじを優先し翻訳を行い、脚本データベースの英語版に掲載した。
- ・Japan Content Catalog (JACC サーチ) やジャパンサーチとの連携を継続して行った。

■資料のデジタル化

- ・脚本資料の表紙撮影を行い、脚本データベースにサムネイルとして掲載した。
昭和 30 年代の筒井敬介氏脚本について実施（令和 3 (2021)年 9 月撮影実績）
倉庫保管分の表紙撮影：1090 冊
「バス通り裏」本文撮影：219 冊
川崎市市民ミュージアムへ第三期寄贈分の表紙撮影：1,879 冊
アニメ脚本の表紙デジタル化：1986 冊
- ・コロナ禍での資料閲覧の困難な状況や、川崎市市民ミュージアムのような被災を想定し、今後は、利活用に向けた準備として脚本本文の公衆送信について、著作権団体との分科会により、今後の方針を検討した。
- ・キーワード付与については、大学連携による研究者や、有識者委員会や、作家を中心とした分科会においてにて検討を開始した。より多くのテキストを入力することが有益であるとの意見を受け、あらすじほかの入力を積極的に行った。

③脚本家等の証言録取

- 脚本家インタビュー：石森史郎氏、山田隆司氏、関島真頼氏、待田堂子氏
- 過去の音源の活用：日本放送作家協会が放送した広報番組（ラジオ日本）で収録した 200 名のインタビュー番組の音源のうち 40 名の書き起こしに協力し、データの共有を行った。
- 「放送作家の証言」への協力：日本放送作家協会の有志研究チームが取り組む放送作家へのインタビューについて資料提供および動画データの連携協力を行った。
放送作家：大岩、ダンカン、テリー伊藤、奥山コーシン、山田美保子

5.2 目録の作成及びデジタル化に関する研究

①目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、国際発信の研究

公開済「脚本データベース」 <http://db.nkac.or.jp/> について下記の拡充・検討を行った。

- ・収集した脚本の目録を入力し、「脚本データベース」に順次追加掲載した。
現在、88,815 点の書誌データを掲載。また新規撮影した表紙画像を更新掲載した。
(現在の画像掲載数 79,797 点)。
- ・あらすじ追加を実施するほかキーワード入力の商品検討を継続して行った。
- ・脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。
- ・利活用に向けた準備として脚本本文の公衆送信について、著作権団体との分科会により、今後の方針を検討した。
- ・キーワード付与については、大学連携による研究者や、有識者委員会や、作家を中心とした分科会においてにて検討を開始した。より多くのテキストを入力することが有益であるとの意見を受け、あらすじほかの入力を積極的に行った。
- ・異なるコンテンツ（アニメ、映画、音楽など）を連携検索する「JACCサーチ」へ、更新する書誌データを送信した。
- ・デジタル化した資料について、インターネット掲載許可を受けた資料につき次年度掲載するための相見積もりなどの準備を行った。

②大学機関との連携研究

現在の連携大学機関：東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、同志社大学、国立国語研究所。

- ・子どもの教育活用のほか、シニア世代への社会的活用を調査し活用を実施検討していたが、毎年開催していたワークショップはコロナ禍において中止。

「回想法」については研究者と連携し、博物館での実施モデルに次年度開催予定。

③脚本家に焦点をあてたデータベースの改修 ※大学機関との連携研究にて構築

「日本の放送番組・アニメーションから見る 脚本データベースと日本の脚本家たち」

<https://basdj.nkac.or.jp/>

- ・各作家の作品リストを調査し、その所蔵状況を把握し、未収集分の脚本について「作品目録」の作成を目指し、日本の脚本家を抽出し紹介した。
- ・日本放送作家協会との連携により、前述の 250 名のラジオ音源をもとに「放送作家の証言アーカイブ」を構築し、オーラルヒストリーと共に公開する方法の準備を開始。

④「ジャパンサーチ」との連携 <https://jpsearch.go.jp/>

- ・現在、国立国会図書館が中心として開発した「ジャパンサーチ」へ、JACCサーチを経由し

て「脚本」の書誌データを継続して提供。

5.3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

①所蔵館の連絡研究

調査結果では、全国で脚本の所蔵館は公共図書館約 100 か所、その他文学館・資料館も 30 か所以上で「地域資料」として分散保存され、多くは OPAC にも掲載されていない。過去の調査結果を踏まえ、公共図書館アンケートを再調査すると共に目録を再整理した。

前述した通り、新たに公開した大学連携で作成しているデータベースにおいて、所蔵館の目録を活用する方法について引き続き検討した。

②放送局との連携に向けた研究

脚本の所蔵主体として、各放送局のライブラリー・アーカイブスは看過できない。

しかし、公的機関と異なり、公開を前提としていないため所蔵の把握が極めて難しい。

そこで、上記所蔵館連絡会と並行し、各局のライブラリー部との連携準備として 2019 年度より放送局へのヒヤリング等を開始したが、コロナ禍において、外部からの放送局への立ち入りは難しいため、日本民間放送連盟の協力により、連絡会の実施を目指し呼びかけを行った。関係部署が多岐にわたるため、実施には時間を要するが、資料保管の方法、データベース管理についてなど、連携したい項目を提示し情報共有を依頼した。

5.4 委員会の開催、シンポジウム、その他イベント

①「脚本アーカイブズ検討委員会」の開催

- ・第 1 回：2021 年 7 月 5 日（月）14:00～16:00（オンライン開催）
- ・第 2 回：2021 年 10 月 19 日（火）14:00～16:00（オンライン開催）
- ・第 3 回：2022 年 3 月 10 日（木）14:00～16:00（オンライン開催）

※参加団体：国立国会図書館、東京大学、日本大学、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会、NHK、日本民間放送連盟、放送番組センター、早稲田大学演劇博物館、国立映画アーカイブ、映像産業振興機構（VIPO）、日本動画協会、総務省、弁護士

②作家団体の分科会の開催

- ・第 1 回 7 月 1 日
- ・第 2 回 3 月 22 日

※参加団体：日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会

③シンポジウムの開催

シンポジウムをオンラインで開催した。

■題名 『脚本の創造性とデジタルアーカイブの未来』

■日時 2022年2月13日(日) 13時半～17時 オンライン実施

■参加者 登録者：415名 参加者 275名

■プログラム

●挨拶 13:30～13:45

- ・林保太(文化庁参事官(芸術文化担当)付芸術文化支援室長)
- ・吉永元信(国立国会図書館長)
- ・池端俊策(日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事)
- ・活動報告(事務局・石橋映里)

●基調講演 13:50～14:15

「脚本を残すという事」

池端俊策(脚本家)

●座談会 14:20～15:40

「脚本の中の幕末と明治維新」

登壇者：大森美香氏(脚本家)

黒崎博氏(NHK演出家)

司会：岡室美奈子氏(早稲田大学演劇博物館館長)

●パネルディスカッション 15:45～17:00

脚本アーカイブズが目指す「デジタル脚本ミュージアム」

登壇者：福井健策氏(弁護士・骨董通り法律事務所)

高野明彦氏(国立情報学研究所)

槇田寿文氏(映像産業振興機構)

植野淳子氏(動画協会『アニメNEXT_100』プロジェクト)

司会：吉見俊哉氏(東京大学大学院情報学環教授)

③若手制作者向けセミナーを開催した(共催：VIPO)

脚本家・水橋文美江氏×櫛山裕子氏(日本テレビ)×聞き手・さらだたまこ氏

④展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年4回を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

1. 2021年4月～6月 『熱き男たちの群像～刑事ドラマと「石原軍団」』
2. 2021年7月～9月 『夏だ！アツイぞ！スポーツ・スポ根！』
3. 2021年10月～12月 『勸善懲悪！お茶の間を沸かせたテレビ時代劇』
4. 2022年1月～3月 『特撮ヒーロー 光の国から永遠に・・・！』

第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施

1. 収集作業について

1.1 今年度の収集実績

令和3(2021)年度に収集し、3月末までにカウントできた寄贈脚本は冊であった(下表)。残り2万冊弱の概算となっている。次年度の移管に際し、寄贈受け入れは一時休止したが、昭和期活躍した作家や制作者が高齢化している中、収集活動は急務といえる。

1.2 令和2年度の収集実績

まだ整理中で暫定的な数字ではあるが、令和3年度に収集し、3月末までにカウントできた寄贈脚本は4077冊。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策で活動に制限がかかるなか、作家・監督・俳優などの制作関係者や関連団体、研究機関などから寄贈があった。来年度は国立国会図書館への第2期寄贈に向けた整理・燻蒸が収集の主たる作業となるため、今年度の2月末で一旦寄贈の受付を休止する旨をHPや著作権団体を通じて作家に呼びかけた。年明けに寄贈が集中するかと思われたが、昭和の脚本に限定したためか団体所属作家からの寄贈は1件のみであった。まとまった寄贈としては、元日本テレビのプロデューサー・故・嶋村正敏氏、脚本家・金子成人氏、2021年4月に亡くなった脚本家・橋田壽賀子氏、特撮番組などの監督・山際永三氏、女優・由美かおるが所属した西野バレエ団の創始者・西野皓三氏設立の芸能事務所・西野企画、長年時代考証を手掛けてこられた天野隆子氏など。

【令和3年度脚本収集作業進捗状況表(2022/3/20)】

	寄贈元		作業状況	受取日	1980年前 放送	1981年後 放送	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者 別冊数
1	故・嶋村正敏	制作者(遺族)	入力済	2021/5/10	302	109				9	420
2	金子成人	作家	入力中	2021/5/14	117	984					1101
3	山際永三	制作者	入力済	2021/6/5	421	90					511
4	故・志保京助	制作者(遺族)	入力済	2021/6/30	2		10				12
5	鷺山京子	作家	入力済	2021/8/4	62	157	9	3	46		277
6	日本脚本家連盟	関係団体	入力済	2021/8/30		108	9				117
7	野波静雄	作家	入力済	2021/10/25	256	253	23				532
8	故・橋田壽賀子	作家	入力中	2021/11/2	269		4				273
9	天野隆子	制作者(時代考証)	未入力	2021/12/7							0
10	天野隆子	制作者(時代考証)	未入力	2022/1/11							0
11	三宅直子	作家	入力済	2022/1/11	13				13		26
12	千葉成就	一般	入力中	2022/1/24、2/22	48	10	5		2		65
13	一ノ瀬俊也	一般	入力済	2022/1/24					1	1	2
14	根本航平	制作者(西野企画)	未入力	2022/2/25	316	13	49	65			443
15	東京音楽大学	研究機関	未入力	2022/2/28	234	62		2			298
			合計		2040	1786	109	70	62	10	4077

2. 寄贈者別詳細

以下、今年度に寄贈のあった脚本家・制作関係者と寄贈脚本の概要を紹介したい。

① 故・嶋村正敏（制作者）

元・日本テレビプロデューサー。ご遺族の嶋村希伴氏より5月に420冊を寄贈いただいた。一番古い台本は昭和36年のお昼の演芸番組『トップ・ライトの眼』。芸人のコロンビア・トップ、コロンビア・ライトが毎回出演する25分のドラマ仕立てのバラエティ。演出を担当した嶋村氏のコンテ台本にはカメラのカット割りなどが書き込まれている。昭和37年の夜10時半から放送の30分枠ドラマ『愛の劇場』の脚本の中には脚本・寺山修司、演出・せんぼんよしこの『宿題』という脚本があり、その1冊だけ「寺山修司脚本」とメモ書きされた日本テレビの封筒に別置されていた。1970年放送の『恐怖』という番組の台本にはカット割、絵コンテ、セットの青焼き図面、ロケ地地図など多数の資料が挟み込まれているが、脚本のほかにも製本された『恐怖体験集』が4冊あり、実際に起こった恐怖体験をもとにドラマ仕立てで制作されていたことがわかる。1970年代までは『加耶子という女』『雪舞い』『心の旅路』など演出を手掛けた連続ドラマの台本のコンテ台本と決定稿がセットになっている。1980年代になると『火曜サスペンス劇場』の演出・プロデュースを手掛けるようになり、鷲尾いさ子主演の『新・女検事霞夕子シリーズ』、坂口良子、若村麻由美主演の『京都女性記者シリーズ』など息の長い人気シリーズの脚本が揃っている。脚本以外にも原作コピー、脚本家との打ち合わせ稿や、やりとりをしたFAX用紙、作中の事件に関わる法令のコピーなどの資料が多数あり、番組作りに積極的に関わっていた制作者の姿勢がうかがえる。昭和から平成にかけて30年にわたる番組の変遷を示す貴重な脚本群である。

② 金子成人（脚本家）

1949年長崎生れ。高校卒業後、サラリーマン生活の傍らシナリオ研究所に入り、倉本聰に師事。1972年テレビドラマ『おはよう』で脚本家デビュー後も、バーテンダーや女優・八千草薫の運転手などのアルバイトをしながら日活ロマンポルノを執筆。1974年に『太陽にほえろ!』のプロット募集に入選。1975年『前略おふくろ様』にサブライターとして参加。以後、『大都会闘いの日』『大都会PART2』『大追跡』などアクションドラマを多数執筆。1979年『死にたがる子』で放送文化基金賞を受賞。1997年『魚心あれば嫁心』『終わりのない童話』で向田邦子賞受賞。1987年連続テレビ小説『チョっちゃん』、1995年連続テレビ小説『走らんか』、2005年大河ドラマ『義経』を執筆するなど、40年以上精力的にドラマを執筆。2010年代以後は『隠密八百八町』や『付添屋・六平太シリーズ』などの時代小説執筆にシフトしているが、こちらも多作である。日本脚本家連盟から日本脚本アーカイブズの理事に就任されており、会議に参加の度に『家にある脚本寄贈するから』とお申し出いただいていたところ、5月に1101冊の脚本を寄贈いただいた。その冊数からも多作ぶりがうかがえるが、1980年以前の脚本は1割ほどの107冊。『警視庁殺人課』『西部警察』などの刑事ドラマに限らず、ツッパリ少年たちと弁当屋の女主人との交流を描いた『茜さんのお弁当』、小泉今日子主演の『明日はアタシの風が吹く』、重厚な

時代劇『真田太平記』、向田邦子シリーズなど、ホームドラマから時代劇まで幅広いジャンルの脚本が揃っており、氏の多才ぶりがうかがえる。今年度は1980年以前の脚本の整理に注力したため、1981年以後のデータ入力は未完。来年度も作業を継続したい。

③ 山際永三（制作者）

1932年、兵庫県生まれ。慶應義塾大学卒業後、新東宝映画会社入社し、石井輝男監督らに師事。新東宝倒産後、佐川プロなどを経て国際放映の専属監督となり、1969年にフリーの監督になる。『ブラザー劇場』の『コメットさん』、第二期『ウルトラシリーズ』など数多くの特撮ドラマを監督する。89才目前の昨年6月、511冊の脚本をご寄贈いただいた。1960年代の子ども向け人気ドラマ『チャコちゃんシリーズ』の『チャコちゃん ハイイ』『チャコねえちゃん』をはじめ九重佑三子主演の『コメットさん』、1970年代以後の第二期ウルトラシリーズ『帰ってきたウルトラマン』『ウルトラマンA エース』『ウルトラマンタロウ』、1974年に大ベストセラーとなった小松左京原作のドラマ『日本沈没』など特撮ドラマの台本が多数揃っている。監督した番組の脚本には、セリフの修正や効果音、ロケ日程など細かな書き込みがされている。今年度は特撮番組を手掛けた脚本家・鷺山京子氏からの寄贈もあったため、全前年度寄贈の故・高久進氏の脚本とともに2022年1月より放送ライブラリー開催の脚本展で「特撮ドラマ展示」を企画。山際監督の書き込みも見開き展示で目に触れるようになっている。

④ 鷺山京子（脚本家）

1951年、茨城県生まれ。日大芸術学部在学中に脚本家・石森史郎氏に師事。1974年『てんとう虫の歌』でデビュー。その後、東映製作の特撮テレビドラマの脚本を執筆。『スーパー戦隊シリーズ』や『仮面ライダーシリーズ』等、特撮の分野で活躍する女性ライターのパイオニアとなった。日本放送作家協会の会員であり、脚本アーカイブズの前進である『脚本アーカイブズ準備室』で収集作業を担当。寄贈受付一旦中止の報せを受けて8月に段ボール2箱送付。『仮面ライダー』『仮面ライダーBLACK』『機動刑事ジバン』『重甲ビーファイター』などの特撮ドラマ以外にも『がんばれレッドビッキーズ』、教育テレビの『はばたけ6年』などの子供向けドラマ、『まんがはじめてものがたり』『魔法のプリンセスミンキーモモ』『The かぼちゃワイン』などのアニメ脚本など、子供番組の脚本を中心に277冊を寄贈いただいた。

⑤ 野波静雄（脚本家）

1936年、高知県生まれ。10月にご本人からご寄贈の申し出があり、中野のご自宅まで脚本を取りに出かけた。ご自宅まで脚本を収集に。『桃太郎侍』、『暴れん坊将軍』、『鬼平犯科帳』など時代劇中心。倉本聰原案の『6羽のかもめ』第19話を執筆された脚本も1冊あった。刑事ドラマ『特捜最前線』など男性向けのハードな作風の脚本も多いが、『妻たちの劇場』枠『生きていく私』など主婦をターゲットにしたドラマ脚本もあり多才ぶりがうかがえる。『The かぼちゃワイン』のアニメ脚本も7冊あり、どのような経緯で畑違いともいえるジャンルの脚本の執筆に至

ったのか興味がそそられる。

⑥ 故・橋田壽賀子（脚本家）

1925年、京城生れ。日本女子大学卒業後、早稲田大学第2文学部に入学。在学中に学生劇団に入り、役者と脚本の執筆を担当。卒業後、松竹脚本部に所属。1950年公開の映画『長崎の鐘』の脚本を執筆した新藤兼人のアシスタントとなり、1952年公開の映画『郷愁』の脚本を単独で執筆。1959年、秘書部への異動を断り松竹退社。テレビ局に原稿を売り込みにいくが採用されず、小説や漫画の原作を執筆。1964年東芝日曜劇場枠のドラマ『袋を渡せば』で脚本家デビュー。同枠での『愛と死をみつめて』が話題となり脚本家としての地位を築き、1968年にはNHKの連続テレビ小説『あしたこそ』を執筆。1976年にNHK銀河テレビ小説枠のドラマ『隣の芝生』で辛口の嫁姑同居問題を描き話題となる。以後、大河ドラマ『おんな太閤記』『春日局』『いのち』、連続テレビ小説『おしん』『おんなは度胸』『春よ、来い』などを執筆。『おしん』は最高視聴率62.9%のテレビドラマ最高視聴率を記録。アジア、中東など海外でも放送され世界中に『おしん』ブームを巻き起こした。平成に入っても30年近くにわたりTBSのドラマ『渡る世間は鬼ばかり』を執筆。2021年4月、急性リンパ腫のため死去。

亡くなられて半年後の10月、第2回検討委員会で放送博物館の磯崎さんと、NHKアーカイブ阿部さんから9月に熱海の橋田邸に収集に伺った旨ご報告があった。まだ脚本はたくさん残されているということで阿部さんに橋田財団につないでいただき、11月2日、橋田邸に石橋事務局長と二人で収集に伺った。地下の書庫本棚に排架してあった脚本を1階まで運び、段ボール15箱に梱包。後日宅配業者に事務局まで送付。TBSの脚本は後からTBSが収集するという事によってけられており、それ以外のドラマ台本を寄贈いただいた。主な作品としては日本テレビ月曜スター劇場枠（1970年代）『つくし誰の子』『おふくろの味』『たんぼぼ』シリーズ、朝日放送の『近鉄金曜劇場』（1960年代）、（1980年代）銀河テレビ小説『男が家を出るとき』『お入学』、（1990年代）連続テレビ小説『おんなは度胸』『春よ、来い』、2000年代『ハルとナツ』など。1980年代ぐらいまでの台本はハードカバーをつけて合本されている。整理中で暫定的な数字ではあるが、1980年以前の脚本が269冊、81年以後が170冊ほど。除外したはずのTBSのドラマ、山口百恵主演の『赤いシリーズ』の『赤い疑惑』15、16話、『大家族』の手稿合本も混じっていた。

滞在時間は3時間ほどであったが、作業の後、先生が執筆されていた海に見えるリビングでお世話をされていた三原さんから、ダイニングテーブルの海に見える席に座りシャーペンで執筆されていたという生前の橋田氏のご様子なども伺うことができた。

⑦ 天野隆子（時代考証）

風俗時代考証家。「脚本が家にたくさんたまって床が抜けそう」というご本人からの連絡を受けたNHKアーカイブの阿部さんからご紹介いただき、12月に南青山のご自宅に収集に伺う。現在放送中の『カムカムエブリバディ』（昭和時代担当）、次の朝ドラ『ちむどんどん』など長年

連続テレビ小説（朝ドラ）などの時代考証を担当されていたこともあり、考証前の準備稿も含め手掛けたドラマ脚本が作品ごとに紐で結わえられた状態で保存。2階から梯子で上がるロフトを中心に大量に収蔵されていた。4人がかりで2時間半ほどの作業で段ボール50箱ほどに梱包。NHK以外にもフジテレビの三谷幸喜氏のドラマ『黒井戸殺し』なども混在していた。年明けの1月にもまだ家の隅から出て来た脚本5箱ほどが事務所に送られてきた。まだ冊数のカウントもできていない状態だが、2000冊前後と推定。天野氏は大学卒業後、10年ほど普通の主婦として家事と育児に専念していたが、大学時代の恩師と再会した際に「すっかり所帯やつれして」と叱られたことがきっかけで大学の女性史研究会の活動に参加。研究会で引き受けていたドラマの時代考証の仕事を個人で受けるようになり今に至っているという。氏が手掛けたドラマで一番古いものが1982年の連続テレビ小説『ハイカラさん』。国会図書館寄贈の対象にはならないが橋田邸でも収集できなかつた『おしん』がほぼ揃うことになった。考証前の準備稿もセットでとってある。朝ドラの変遷や、時代考証をうけて脚本がどう変わっていったのかを研究するの適した資料群。今後整理をして活用方法を考えていきたい。

⑧ 三宅直子（脚本家）

以前にも『ケンちゃんチャコちゃん』シリーズなど昭和のこども向けドラマ脚本を大量にご寄贈いただいている。2月末で受付一旦休止のお知らせを受けて、『まだ家に昭和の台本がありました』ということでドラマとアニメを合わせて26冊送付いただいた。作家団体に向けて12月にお知らせでご寄贈いただいたのはこの1件。

⑨ 千葉成就（スタッフ関係者）

2月末まで昭和の脚本の寄贈を受付けているというHPの告知を見て「制作関係の知人から譲ってもらった昭和の脚本がある」とHPのフォームから寄贈申し込みいただき、2回に分けて送付いただいた。古い脚本では「ブラザー劇場」枠の月形龍之介主演の『水戸黄門』（1964年）や『キイハンター』（1968～1973年）、アニメ『魔法使いサリー』（1966年）など48冊。昭和40年代から50年代にかけての東映株式会社関連のドラマの企画書も44冊同梱されており、その大半は放送に至っていない番組である。当時人気のあった少女漫画『あした輝く』（作・里中満智子）もドラマ化が企画されていたが実現に至っていなかったことが分かり、当時の番組制作の状況がうかがえる貴重な資料である。国会図書館に移管できるよう作業を進めたい。

⑩ 根本航平（西野企画）（出演者）

女優・由美かおる、金井克子、岸ゆきなどを輩出した西野バレエ団の創始者・西野皓三氏が昨年亡くなられていたという記事が先月新聞に出ていたが、その記事が出る少し前に「昭和の脚本が段ボールにたくさんある」ということでHPの申し込みフォームから連絡をいただいた。段ボール7箱で送付。まだ整理中だが、昭和33年から始まった読売テレビの『バレエ・オムニバス』、『エビオスバレエ劇場』のバレエを紹介する番組やNHK『歌のグランドショー』などの脚本が

あり、西野皓三氏が番組の振付・構成を担当。西野バレエ団はバレリーナの養成からテレビ番組に進出。バレエ団のエースで構成されたユニット『レ・ガールズ』は日本のアイドルグループの草分けで、彼女達が出演する『レ・ガールズ』という番組の脚本もモニター資料とともに寄贈された。脚本を見ると、番組はゲストとコントをする『ミニ・ミュージカル』、マスコット人形を使ったコント『コント・デ・マー坊』、歌のコーナー『ヒットソング・コーナー』および『ショー・ナンバー』、そして一般からの参加者とダンスを披露する『みんなで踊ろう』の5つのコーナーで構成されていたことが分かる。構成番組以外にも由美かおるらが出演したドラマ『009 ノ1』『日本沈没』『ゆうひが丘の総理大臣』などの脚本も。西野バレエ団はクラシックバレエを芸術とは違う芸能の文化で発展させていった希有な存在であり、その変遷をうかがい知る貴重な資料で、放送番組の台本は300冊以上あり、他にもバレエ公演や映画の台本も多数あるので、今後は演劇博物館、映画アーカイブとも連携して保存していきたい。

⑪ 東京音楽大学

2018年度に全国の大学図書館への脚本所蔵調査を実施。アンケートの回答率は低かったが、回答をいただいた椛山女学園大学の飯塚先生より172冊の寄贈があった。アンケートで脚本アーカイブズが脚本を収集していることが認知された結果であり、翌年、東京音楽大学からもアーカイブズのHP経由で寄贈申し込みがあった。申し込みいただいた2019年11月は川崎市市民ミュージアムが被災した直後だったので、落ち着いてから受け付けたい旨を連絡。今年1月に再度連絡をいただき、段ボール箱5箱、298冊の脚本の寄贈を受けた。1973年から日本テレビで放送されていた『私の音楽会』というクラシック音楽の紹介番組の脚本と、1970年第後半～80年代のNHK教育番組でのクラシック音楽解説番組『音楽ハイライト』が中心。音楽評論家の丹羽正明氏が解説をしている番組であり、氏が東京音楽大学の教授であったことから大学図書館で脚本を所蔵していたと思われる。寄贈を申出た大学図書館の信時氏が読売新聞のデータベースを確認したところ、1978.04.07に、「5周年迎えた日本テレビ『私の音楽会』“生まじめ”さに人気 クラシックの魅力たっぷり」という表題の記事があり、「ただの演奏会の録画だけではない、テレビらしい『味つけ』について、『音楽評論家の丹羽正明さんが司会を受け持ちながら、演奏の前後にゲストに率直な質問をぶつけて、自己を語ってもらうというものだ』」と記載されていた旨をメールでいただいた。現在民放で放送されている教養音楽番組は『題名のない音楽会』が思い浮かぶが、それ以前にもこのような番組があったことと、その内容が知れる放送史の貴重な資料である。

3. 令和2年度 放送脚本資料等電子化作業の実施概要について

① 貴重書の撮影

昭和30年代の筒井敬介氏脚本について実施。

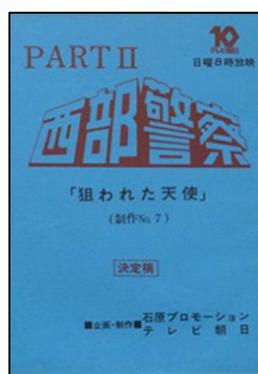
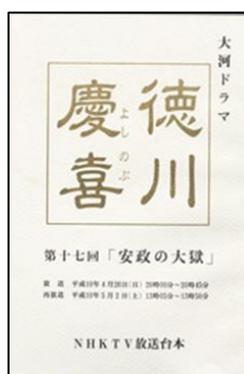
NHK初の連続ドラマ「バス通り裏」は本文全体を撮影した。

- ・表紙部分のスキヤニング作業：1,090冊
- ・本文部分のスキヤニング作業：219冊（5,158ショット）



② 川崎市市民ミュージアム第三期寄贈分の「表紙」撮影（合本）

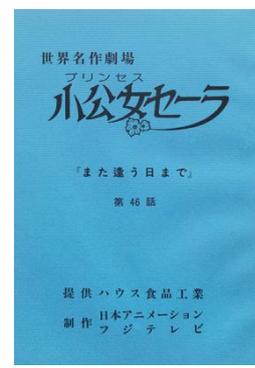
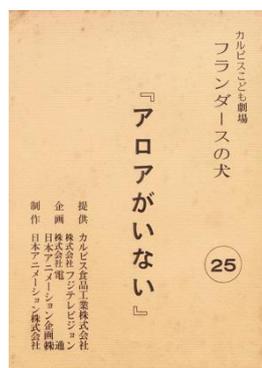
川崎市市民ミュージアムへ第三期に寄贈した1,879冊について撮影を実施。



③ アニメ脚本「表紙」撮影

1986冊について撮影を実施。

18禁の成人向けゲームが原作のアニメが一部含まれていたことから、表紙画像はデータベース掲載から除外した。



【1】 放送脚本資料の表紙及び本文撮影

報告：株式会社ニチマイ

(1) 作業内容

法政大学多摩キャンパスより移送された放送脚本資料の表紙及び本文部分をスキャンし、画像データを作製。スキャン作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャン作業前整理作業
- 2) スキャン作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャン漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi 放送脚本の表紙と本文
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24 ビットフルカラー
- 4) データ形式
 - ①JPEG2000
 - ②PDF
- 5) 格納メディア
HDD

(4) 使用スキャナー

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1台～2台（弊社所有機器）



スキャナー仕様

出力解像度	200、240、300、400、600（光学解像度 400dpi）
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレイスケール、2 値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMKⅡLab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和3年5月31日～令和3年8月24日

②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：2名

②スキャニング作業：1名～2名（文書情報管理士1級）

③一次画像検査作業：2名

④二次画像検査作業：2名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

①表紙部分のスキャニング作業：1,090 ファイル

②本文部分のスキャニング作業：5,158 ファイル

【2】 川崎市市民ミュージアムへ第三期寄贈分の表紙撮影

(1) 作業内容

川崎市市民ミュージアムへの第三期機増分の表紙部分のスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業

2) スキャニング作業

3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）

4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）

5) 画像ファイル変換作業

6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】放送資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和3年11月17日～令和4年1月14日

②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1名

②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）

③一次画像検査作業：1名

④二次画像検査作業：1名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：1,879ファイル

【3】アニメ脚本資料表紙撮影

(1) 作業内容

アニメ脚本資料の表紙部分のスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業

2) スキャニング作業

3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）

4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）

5) 画像ファイル変換作業

6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和3年12月23日～令和4年2月25日

②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1名

②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）

③一次画像検査作業：1名

④二次画像検査作業：1名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：1,986 ファイル

【4】その他

1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあった。

2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは1点1点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されないので、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

4) 資料形態等

・合冊製本されている資料について、脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかったが、合本製本の綴じがきつく本文にかかって脚本が多くあったので、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

（資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。）

5) 資料保管場所

弊社に持ち込まれた脚本資料は以下弊社セキュリティ体制のもと弊社耐火保管庫にて保管。

①耐火保管庫 外部及び内部画像

②資料保管場所他セキュリティについて

弊社本社への入館及び耐火書庫設置場所及び各作業場

所へはセコム入退室カードシステムにより関係者以外は入室できない体制を整えている。

また、耐火保管庫設置場所及び各作業場所への入退室について日時単位で個人特定が可能な仕組みとなっている。



第4章 目録の作成及びデータベース公開について

1. 目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

1.1 現在の書誌採取の基礎項目は下記の通り

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。 NDL001-0001（国立国会図書館へ寄贈）など	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、 ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人 形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇 場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6月の花嫁シリーズなど、 内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
タイトル英語化	ローマ字で記載するにとどまり、翻訳には至っていない	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、ホチキスの外れ、コピー台本、規格 外の大きさであるなど普通ではない状態の場合に記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイト ルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×
寄贈元/属性	寄贈者／寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○
プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○
音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○

美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフ（大道具・小道具等）はスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30分、2時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し600字～1000字程度作成	○

【脚本データベースに掲載中の書誌分布】（データベース掲載 88,815件について）

【メディア別内訳】

メディア	冊数
テレビ	68,521
ラジオ	15,806
映画	2,379
舞台	1,806
ビデオ・DVD	134
レコード・CD・カセット	118
インターネット	16
不明	12
ゲーム	11
テレビ・ラジオ	6
館内	6
合計	88,815

【年代別内訳】

年代	冊数
1930年代	14
1940年代	116
1950年代	7,407
1960年代	18,436
1970年代	15,633
1980年代	12,900
1990年代	8,943
2000年代	6,842
2010年代	2,314
2020年代	71
不明	16,139
合計	88,815

【ジャンル別内訳】

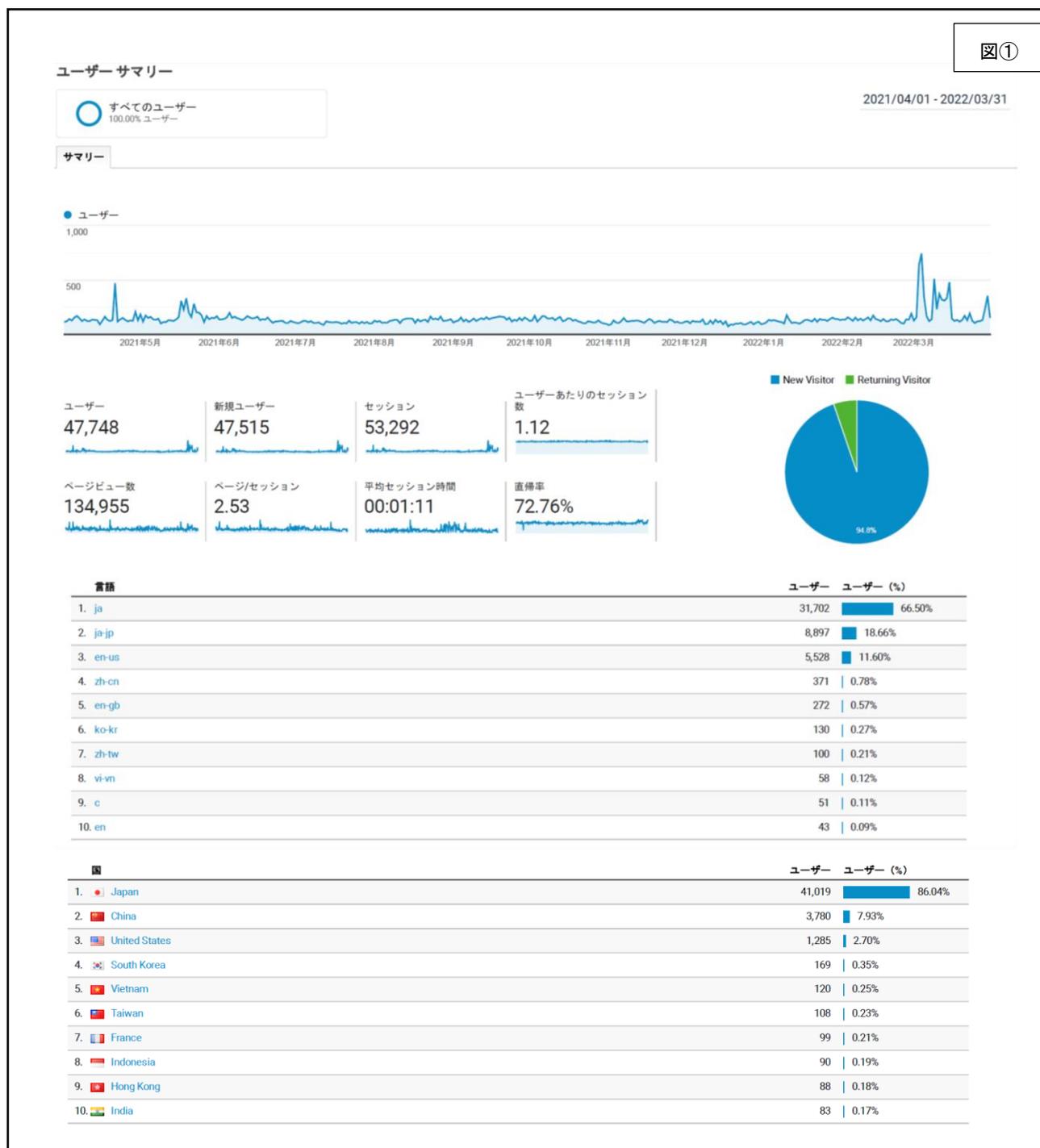
ジャンル	冊数
ドラマ	51,058
構成	20,562
アニメ	9,181
映画	2,387
海外ドラマ	1,440
海外構成	1,267
演劇	1,120
人形劇	748
イベント	412
歌舞伎	398
海外アニメ	134
海外映画	65
CM	20
ゲーム	14
不明	9
合計	88,815

1.2 データベースの利用状況

公開中の「脚本データベース」の2021年4月1日から2022年3月31日までの利用数は、ユーザー数47,748（一日平均130名）、ページビュー134,955。英語利用者が11%。

国別では日本国内に次いで、中国、アメリカ、韓国、ベトナム、台湾、フランス、インドネシア、香港、インドとなっており、アジア圏が多いことがわかる（図1）。

特質すべきは、直近1か月のユーザーを比較したところ、中国からの利用が急増し、英語利用が日本語と同数の48.67%に及んでいる点である（図2）。利用者も一日平均240名を超えている。今後はあらすじ・作品紹介やインタビュー動画等を強化し、国際発信につなげたい。



ユーザー サマリー

2022/03/01 - 2022/03/31

すべてのユーザー
100.00% ユーザー

サマリー

● ユーザー



ユーザー
7,248

新規ユーザー
7,159

セッション
7,604

ユーザーあたりのセッション数
1.05

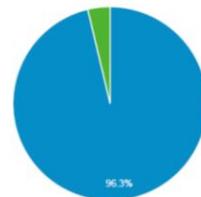
ページビュー数
12,864

ページ/セッション
1.69

平均セッション時間
00:00:36

直帰率
84.85%

■ New Visitor ■ Returning Visitor



国	ユーザー	ユーザー (%)
1. Japan	3,628	49.89%
2. China	3,485	47.92%
3. United States	52	0.72%
4. South Korea	19	0.26%
5. Taiwan	9	0.12%
6. Hong Kong	7	0.10%
7. Indonesia	7	0.10%
8. Australia	6	0.08%
9. Canada	5	0.07%
10. France	5	0.07%

言語	ユーザー	ユーザー (%)
1. en-us	3,543	48.67%
2. ja	2,849	39.13%
3. ja-jp	764	10.49%
4. zh-cn	31	0.43%
5. c	21	0.29%
6. ko-kr	16	0.22%
7. en-gb	13	0.18%
8. en-au	6	0.08%
9. en-ca	5	0.07%
10. zh-tw	5	0.07%

「アニメの脚本と脚本家データベース」については、今年度モバイル版も公開した。(下図) 英語版も簡単に切替え可能。

MENU から英語版切替え

11:14

アニメ脚本と脚本家のデータベース

検索するキーワードを入力

同義語を含む 検索HELP

アクセスランキング

- 蒼き狼
- 魔法使いサリー
- デビルマン
- クルークラブ
- まぼろしまぼちゃん

山田隆司

石森史郎

渡辺麻実

デビルマン

Wikipedia

デビルマン

『デビルマン』は、1972年から1973年にかけて発表された永井豪原作の日本のメディアミックス作品。

Wikipedia記事へ

出典: Wikipedia
ライセンス: CC-BY-SA
記事の更新日: 2021/09/12 01:40:27

Top ページ/キーワード検索

インタビュー

サムネイルと Wikipedia

妖元師レイ・コック・化石の学園

作家

辻真先

原作者

永井豪

放送局

NET

放送日

[1973/3/10]

放送回

[35]

かな

デビルマン

[詳細ページ](#)

あらすじ

『デビルマン』 ヒマラヤを探検していた不動博士とその息子、明は氷の中に閉じ込められていたデーモン族が蘇ろうとしている場に居合わせてしまう。そこで親子は命を奪われてしまう。デーモン一族は人間達を抹殺し、地球を自分たちの元に取り戻そうとデーモン族の英雄、デビルマンが不動明の体に乗っ取らせ、地球征服の先鋒に仕立て上げる。ところが不動明となったデビルマンは従姉妹の牧村美樹に恋をして、本来の自分の役割を放棄し、デーモン族から人間を守るようになる。それ以来、裏切り者としてデーモン族から次々に刺客を送りこまれ、同族同士で戦う日々を送り続けることになる。アニメーションとしては一話完結物として、毎回、不動明が変身する際「デヴィール!!」と叫んでデビルマンに変身して様々な妖怪と戦い、人間を守ることでストーリーが進んでゆく。しかし、実際の原作は、不動明の親友の飛鳥の父親がデーモンの研究をしており、自分自身が悪魔と合体することを試みるも次第に悪魔化してゆく自分自身に恐れをなし、自殺してしまう。父親の研究の場に立ち会ってしまった不動明がたまたまデーモン族の勇者アモン(デビルマン)と合体に成功して、デビルマンとなる。原作とアニメーションは、デーモン族やある程度設定

[あらすじ](#)

Synopsis

Debiruman (Devilman) While exploring the Him alayas, Dr. Fudo and his son Akira witness d emons trapped in ice trying to come back to li fe. The two are killed there. In order to eradicat e the human race and regain control of the e arth, the demons make the spirit of Devilma n, their hero, enter into Akira Fudo's body a nd make him the leader of their campaign to c onquer the world. However, Devilman, now Akira Fudo, falls in love with his cousin Miki Makimura, abandons his original role, and s tarts protecting people from the demons. The demons send assassin after assassin to kill D evilman, whom they consider a traitor, and thus Devilman is constantly embroiled in a fig ht with his fellow race. Each episode stands al one and usually involves Akira Fudo shouting "devil!", transforming into Devilman, and c ombating various monsters to protect humans. In the original, however, the father of Akira Fudo's friend Ryo Asuka studies demons, att empts to unite himself with a demon, but ev entually commits suicide through fear of hims elf gradually becoming a demon. Akira Fu

[英語版シノプシス](#)

1.4 ジャパンサーチとの連携

上記 VIPO がアグリゲーターとなり、JACC 検索を通じジャパンサーチへの「脚本データベース」が連携データベースとして継続して掲載されている。



「ドラえもん」を検索すると JACC 脚本検索がヒットし
詳細の書誌情報が閲覧できる（詳細書誌・右図）

第5章 大学機関との連携研究

1. 大学連携研究

1.1 共同研究の概要

連携大学機関として前年度に引き続き、東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、同志社大学、国立情報学研究所、国立国語研究所の研究者と情報共有を行い、「脚本アーカイブズ」の利用方法について、教育利用やシニアへの社会的利用を中心に検討を行った。作業場所として、法政大学多摩キャンパス内に研究場所に集約し、脚本の書誌入力・管理および現物寄贈準備を行っている。

1.2. データベース「脚本データベースと日本の脚本たち」の改修を検討

公開中の脚本データベースは、寄贈された資料を記録する検索システム機能のみを有し、作品や所蔵先などのテーブルを別に設けるデータベース機能はない。書誌入力はエクセルに記載する形で行われ、統合・整理して流し込む方法を採用している。

2017年より大学連携研究により、並行して新たなデータベースを開発し、β版として管理画面と公開画面を作成した。今年度は現物資料としてのデータベースを元に、立体的に脚本家を表現できるサイトに公開した。同時に英語版も公開している。「作品」「人物」「脚本資料」に分け、資料を俯瞰する形式になっている。今後は脚本を所蔵する機関の資料情報を追加する形を検討し改修方法を検討した。

1.3 オーラルヒストリー録取

コロナ禍以前は、日本大学芸術学部等に御協力頂き、学生の教育の一環として撮影・編集作業をお願いしたが、学内への立ち入りなどが難しい現在、Zoomなどを活用したインタビューに切り替え、YouTubeにて公開している。

① 脚本家インタビュー

録取実績：石森史郎氏、山田隆司氏、関島真頼氏、待田堂子氏

聞き手：脚本家・小林雄次氏



石森史郎氏



山田隆司氏



関島真頼氏



待田堂子氏

② 放送作家インタビュー（「放送作家の証言」への協力）

日本放送作家協会の有志研究チームが取り組む放送作家へのインタビューについて資料提供および動画データの連携協力を行った。次年度も継続して録取に協力し、脚本データベースへの連携を行う。

録取実績：大岩賞介氏、ダンカン氏、テリー伊藤氏、奥山コーシン氏、山田美保子氏



③ 過去の音源の活用

日本放送作家協会が放送した広報番組（ラジオ日本）で収録した 200 名のインタビュー番組の音源のうち 40 名の書き起こしに協力し、データの共有を行った。

第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

1. 所蔵関係について

1.1 目録の統合の試行

脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。

1.2 連携研究

①所蔵館の連絡研究

下記の所蔵館へのヒヤリングを実施した。

○NHK 放送博物館

実施日：2021年8月12日

取材先：学芸員・磯崎咲美氏

所在地：東京都港区愛宕2-1-1 TEL 03-5400-6900

図書・史料ライブラリー：学術目的の事前申請者のみの利用可能

午前10時～正午／午後1時～午後4時

NHK 放送博物館は、1956年に、世界最初の放送専門のミュージアムとして開館。

放送の歴史に関するさまざまな実物展示をはじめ、だれもが自由に利用できる「番組公開ライブラリー（閉鎖中）」や「図書・史料ライブラリー」も公開している。

2013年に実施した連携研究会第一回で見学を行っているが、その後磯崎氏が博物館を7年ほど離れて、大規模なリニューアルが行われるなど大きな変化があり、データベースの再構築中というお話だった。そのほか連携研究として、コロナ禍以前は、館内での子ども向けの映像制作ワークショップを共催してきた。今後はアフターコロナを視野に新しい脚本利用の連携を検討したい。

○早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

実施日：2021年12月6日実施

取材先：館長・岡室美奈子氏、図書担当・藤谷桂子氏

所在地：東京都新宿区西早稲田1-6-1 TEL：03-5286-1829

図書館利用：月～金曜 10:00～17:00（利用は16:30まで） ※土・日・祝 閉室

利用時間 10:00～13:00／13:30～16:30

2013年に勉強会を実施した際よりさらに資料が増え、2019年には早稲田大学の図書館システム WINE がリニューアルされている。今後は演劇を中心とした脚本の現物の移管について具体的に進めていくことを合意した。改めて書誌データ項目などの連携を図ることを合意した。

○日本動画協会アニメアーカイブ事業

日 時： 2022 年 2 月 22 日（木）

取材先： 一般社団法人 日本動画協会

事務局次長 山脇 壯介

所在地： 関東近郊

■取材に至る経緯

日本動画協会の山脇壯介氏より、アニメ関連素材の保管についてヒヤリングを受けた。アニメ関連素材を保管中の施設の経年劣化が進み、今後保管物の移設を行う可能性があるため、アニメーション関連素材等も保管（アーカイブ）施設へヒヤリングを実施しているとお説明であった。そこで、資料を実際に見学しながら、現状について意見交換する場を頂いた。

保管資料は、アニメ関連資料脚本のほか、原画、背景画、セル画資料など手書きの貴重資料が整然と並び、素晴らしい資料の数々に圧倒される。同時に、保存方法の難しさや保管場所の継続確保の苦労が実感できた。日本が誇るアニメの貴重な資料が散逸することのないよう、関連資料と共に連携所蔵される施設ができることを願いたい。

■保管場所：関東近郊施設

- ・施設内 2 フロアをアニメ資料におけるアーカイブ用として使用。
- ・セキュリティの観点から一般には同施設内にアニメ関連資料が有ることは公表していない。

■保管資料

- フィルム(基本プリントが多く、一部ネガや音声フィルム等あり)

※ プリントフィルム等

- D2、Dβ cam 等
- 中間成果物(カット袋毎による保管)

※ レイアウト、原画、動画、セル画、背景等、混在や
単独のもの有り

※ シナリオ、台本、設定関連資料

- アニメ関連機材(フィルム映写機、ステインベック等)
- CD、DVD、ビデオテープ、カセットテープ等商業素材
- 書籍関連(旧雑誌等)
- 2次制作物関連商品(玩具等)

【保管物の取り扱いについて】

- 保管物は全て寄託扱いとして取り扱っており、全て各社に権利及び所有権がある。
- 保管資料の 2 次的利用の際は、各素材所有者又は権利者と権利処理等行ったうえで活用できる。
- 貸出、活用方法につきましては、今後弊協会及び各社とのシステム化が必要と考えている。但し、一般へのリスト等の開示、閲覧等は現状行えないようになっている。
- 貸出、活用方法につきましては、現状寄託物のままの取り扱い予定の為、逐次相談。



② 複本脚本の寄贈移管

昨年度より複本の寄贈先として、国際日本文化研究センターが加わった。

今年度はテレビ脚本の複本 980 冊を寄贈した。今後も引き続き、年間 1000 冊程度を目標に移管すべく合意している。

③ 川崎市市民ミュージアム所蔵の脚本移管

川崎市市民ミュージアム（以下市民ミュージアムとする）に寄贈した脚本約 2 万 6 千冊について、被災当初、日本大学芸術学部の所沢校舎図書館に保存することで進めていた。しかし 2021 年 9 月、市民ミュージアムの除却が公表され、ミュージアム再建には最低 8 年を要することがわかった。長期間、外部の期間に無償保管をお願いすることは難しいため、川崎市内での保管場所を調整して頂いた。結果、保管場所が川崎市民プラザに決まり、2021 年 11 月 9 日に約 260 箱が移管された。作業は積載重量の関係でトラックが 3 往復する形で実施された。



輸送作業中（市民プラザロビー）

④ 放送局との連携に向けた研究

脚本の所蔵主体として、各放送局のライブラリー・アーカイブスは看過できないが、公的機関と異なり、公開を前提としていないため所蔵の把握が極めて難しい。そこで、上記所蔵館連絡会と並行し、各局のライブラリー部との連携準備として2019年度より放送局へのヒヤリング等を開始した。

しかし、新型コロナウイルスの感染数は、今年度、放送現場や芸能関係の間で急増し、本来の収録や放送以外の理由で現場に立ち入ることがさらに難しくなった。したがって在京キー局および制作会社等にもヒヤリングは断念した。状況の長期化は避けられないことから民放局に関しては、日本民間放送連盟を通じ、実質的にライブラリー部の方々との連絡会の依頼を改めて行った。窓口が多岐にわたるため、時間を要する見込みであるが着実に前に進んでいる。今後も継続し、呼びかけを行う。

第7章 委員会の開催

1. 検討委員会の開催（オンライン開催）

- ・第1回：2021年7月5日（月）14:00～16:00
- ・第2回：2021年10月19日（火）14:00～16:00
- ・第3回：2022年3月10日（木）14:00～16:00

【検討委員会メンバー】

所属	氏名	役職
東京大学	吉見 俊哉	大学院情報学環教授（検討委員会座長）
日本大学	上滝 徹也	名誉教授（コンソーシアム副代表理事）
国立国会図書館	金井 ゆき	利用者サービス部 音楽映像資料課 課長
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	理事長
	窪田 信介	会員/桜美林大学 准教授
	阿相 クミコ	監事
	関 裕司	事務局長
日本放送作家協会	さらだ たまこ	理事長
	香取 俊介	理事
日本放送協会	藤澤 浩一	NHK制作局 制作主幹
	阿部 康彦	NHK アーカイブス
NHK 放送博物館	磯崎 咲美	学芸員
日本民間放送連盟	田嶋 炎	参与
放送番組センター	齋藤 香子	アーカイブ・事業グループ
川崎市市民ミュージアム	秋山 直大	川崎市市民文化局市民文化振興室収集品修復調整担当係長
	磯崎 茂	川崎市市民文化局市民文化振興室収蔵品修復調整担当
	佐藤 美子	川崎市市民ミュージアム 学芸部長
早稲田大学演劇博物館	岡室 美奈子	早稲田演劇博物館館長
国立映画アーカイブ	岡田 秀則	主任研究員・資料室長
映像産業振興機構(VIPO)	楨田 寿文	事務局次長
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山 さと子	理事・収集管理部門主任
文化庁	吉井 淳	参事官(芸術文化担当)付 参事官補佐
	堀内 威志	(前)参事官(芸術文化担当)付 参事官補佐
	伊藤百合子	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係長
	松本 卓也	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係員
総務省	原田 こころ	情報流通行政局 情報通信作品振興課 流通調整係長
法律アドバイザー	福井 健策	弁護士 日本大学芸術学部客員教授

【分科会参加メンバー】

所属	氏名	役職
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
	金谷 祐子	常務理事
	吉野 賢	著作権部部長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	理事長
	窪田 信介	会員/桜美林大学 准教授
	関 裕司	事務局長
	長谷部晋作	理事
日本放送作家協会	さらだ たまこ	理事長
	香取 俊介	理事
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山 さと子	理事・収集管理部門主任

第8章 シンポジウム、その他イベント

8.1 脚本アーカイブズシンポジウム

シンポジウムを下記のとおりオンラインで開催した。

- 題名 『脚本の創造性とデジタルアーカイブの未来』
- 日時 2022年2月13日(日) 13時半～17時 オンライン実施
- 参加者 登録者：415名 参加者 275名

■内容

○ご挨拶 13:30～13:45

- ・文化庁
- ・国立国会図書館
- ・池端俊策(日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事)
- ・活動報告(事務局・石橋映里)

●基調講演 13:50～14:15

「脚本を残すという事」池端俊策

●座談会 14:20～15:40

「脚本の中の幕末と明治維新」

登壇者：大森美香氏(脚本家)

黒崎博氏(NHK演出家)

岡室美奈子氏(早稲田大学演劇博物館館長)

●パネルディスカッション 15:45～17:00

脚本アーカイブズが目指す「デジタル脚本ミュージアム

登壇者：福井健策氏(弁護士・骨董通り法律事務所)

高野明彦氏(国立情報学研究所)

槇田寿文氏(映像産業振興機構)

植野淳子氏(動画協会『アニメNEXT_100』プロジェクト)

司会：吉見俊哉氏(東京大学大学院情報学環教授)

【アンケート結果】

回答：61件(うちコメント44件)

第一部：大変満足50.8%、満足41%、やや不満6.6%、不満1.6%

第二部：大変満足45.5%、満足45.9%、やや不満6.6%、不満1.6%

開催時間など：満足86.9% やや不満13.1%

脚本アーカイブズを知っていたか：知っていた57.4%、聞いたことがある13.1%、
全く知らなかった28.5%

シンポジウムに参加歴：はじめて59%、参加経験あり41%

【アンケートの意見抜粋・第一部について】

■ 大変素晴らしいシンポジウムでした。大森美香さん、黒崎博さんの座談会におきましては視聴中、何度も涙がこぼれました。またこういった脚本家、演出家、ドラマ制作に関わる方のお話が聞ける会を設けていただけますと、とても嬉しく思います。ご案内状をいただき、ありがとうございました。

■ 言語学研究のデータとしての興味をもって参加いたしましたが、「青天を衝け！」を毎週楽しみに視聴していたため、その背景などをじっくり伺うことができたのはとても贅沢でうれしいものでした。たいへん貴重なご活動だと思います。発展していくことを願っています。

■ 座談会「脚本の中の幕末と明治維新」は大森・黒崎両氏の話をつつりと聞けて、「青天を衝け」ファンにとっては素晴らしい企画でした。岡室先生の司会も、かゆいところに手が届く感じで、聞きたいことを聞いてくれました。

■ 特に第一部はとても面白かったです。大河ドラマの脚本執筆の裏側をタイムリーな形で拝聴できてとても貴重な経験になりました。

【第二部について】

■ デジタル保存し、その活用システムを構築・公開する意義が、よく理解できました。特に「創造性」にあたる意義がみえることで、理解が深まりましたし、法律環境の現況が加味されることで現実味も増しました。ありがとうございました。

■ 映像業界の各々でアーカイブ活動がどのような形で進んでいるのか、現在の状況が良く理解できました。配信時代に突入し、もはや映画やTVドラマというジャンルも既成概念では当てはまらない現実があります。多くの脚本家は、ドラマもアニメも映画も執筆されていますから、研究や利活用は、その垣根をなくして行くべきだと強く感じています。合本主義を進めて行くのは、正しい気がしました。

■ できればNDLが中心となり、民間と連携しながら、脚本・映画・アニメ等の利用を促進できる仕組みを作り、文化を発展させてほしい。

■ 何処に行けば、どのようにすれば、その脚本を読むことができるのか、明確にお伝え願いたい。

■ 脚本アーカイブズの活動内容、規模やシステム、方法が良くわかりました。ありがとうございます。私はアニメ業界でアニメーターや演出を長年担当した経験があります。シナリオには興味があります。

■ デジタルミュージアムの構想を実現させるための方法について、既存のアーカイブ等に基づいて議論をお聞きすることができ、大変勉強になりました。たくさん紹介していただいた既存のアーカイブや今後作られるであろうデジタルミュージアムなどを積極的に活用したいと意欲が湧きました。

■ 脚本の重要性を知らしめるのにはとてもよい取り組みだと思います。

小説に劣らない価値を、見る人には見いだしてほしい。

そのためにも、ミュージアムの実現を急いで欲しい。

■勤務先でも有線放送サービスを提供していた頃のレコードが大量に残っており、その、保存や有効活用ということについて、検討している。

脚本その他との連携や、教育などの著作権フリーの利用と、著作権ありの場合とを、上手くミックスして、というアイデアには、とても興味がある。

今後、脚本アーカイブ他との連携ということ、社内でも提起してみたい。

■様々なアーカイブズがデジタルの世界でつながっていくと、面白い展開を目の当たりにすることができそうで楽しみです。

■小さな鉄道資料館の学芸員をしています。展示だけでは貴重な資料を公開していくことに限界があり、デジタルアーカイブの可能性を探っています。EPAD や Japansearch の他にも、いろいろな業界・団体がそれぞれデジタルアーカイブを創ろうとしていることを知りました。また、思っていたより著作権などの法整備が進んでいることも勉強になりました。吉見先生、福井先生が仰られた「合本（連携）」にはとても可能性を感じます。小さなアーカイブでも活かしていただける仕組みを望みます。

■映像が残せるようになって脚本が残らなくなったという発言は大いに気になることでした。映像も元になった脚本も保存すべきだと思います。

■テレビ番組はこれまでずっと使い捨ての文化だったが、ようやく時代を映す鏡である認識が広まり、アーカイブの重要性、貴重性が広く共有されるようになった。

今後はアーカイブを、維持し、利用していくためのシステムづくりが課題になってくる。シンポジウムを通して可能性にさらに深くコミットしていただきたい。

■本来は国会図書館がやるべきことだろうとも感じましたが、活動を通して、様々な組織と縦横と広がればいいなと感じました。

■脚本の保存がなぜ必要かが分かった。

■過去の脚本アーカイブズイベントでもご案内されていたと存じますが、今回、他のアーカイブズ活動について各ご担当者様から直に伺う機会を得て、具体的な課題が浮き彫りになったと感じました。特に福井様は流石、見事な論点整理をされました。

■脚本アーカイブズ活動が周知されてきて、協力者が増えているように感じました。例えば「書き込みのある脚本」といった貴重な資料の寄贈のお話を伺いましたが、この様な事もスタッフの方々の努力の賜物だと思います。

同様の志を持たれている方々との横のつながりができている事も素晴らしいです。

万人が簡単に心地良く使えるようなデジタルミュージアムの実現を期待しています。

■第2部はテレビ由来のコンテンツの保存・継承するにあたっての貴重な論点が数々取り上げられ、非常に有意義だった。人選もよかった。

※参加関係者からは充実したシンポジウムだったとの評価を受け、関係資料を扱う機関から、連携のご提案も届いている。一方、Zoom ウェビナーへ入れないという方が数名いたため、パスワード付きの見逃し配信を設定し視聴して頂いた

※第二部の資料

①福井健策氏資料

<https://drive.google.com/file/d/1r9rnuv8B7vSEzIZXhxQIRznJ17Yfhlem/view?usp=sharing>

アーカイブと権利の壁

利用類型	著作権 (文芸・脚本・講演・映像・音楽・美術・写真等)	著作隣接権 (俳優・演奏家等の実演)	著作隣接権 (既存音源)	肖像・パブリシティ権 (名称・外観・音声)
複製(スキャン・OCR・サーバ蓄積など)	○	△(映画の著作物への録音・録画許諾で消滅)	○	△
上演・演奏・上映・口述	○	×	×	△
放送・有線放送	○	△(映画・レコードなどへの〃)**	×**	△
配信・投稿	○	△(録画の許諾や映画への録音許諾で消滅)	○	△
NFT化(のみ)	×	×	×	×

○: 権利者に禁止権あり=許諾必要、×: 禁止権なし。
 *権利者団体があり、権利者を見つけやすかったり、利用ルールが存在する場合がある。
 レコードの放送については報酬請求権あり。*全般に、未公表作品の公開利用は要了解。

⇒ **所在検索サービスとそのためのデジタルアーカイブの可能化**
(47条の5、2018年改正)

つながるアーカイブと権利情報

- ✓ **図書館・博物館での入手困難資料のデジタル化**、国会図書館を通じた図書館等への配信可(31条)⇒**家庭配信も可能に**(21年改正済み)
- ✓ **非営利の教育機関でオンライン講義での利用可能に**(SARTRASを通じた補償金分配)(21年本格稼働済み)
- ✓ 分野横断の**権利情報データベース**、**集中管理**の促進、**簡素で一元的な利用窓口**により**権利処理あっせん**、権利者不明・返答なき場合の**暫定利用の可能化**など(文化審議会で議論中の新制度)
- ✓ 民間の各アーカイブ活動の開花、政府ジャパンサーチ、芸能・音楽団体による**アーティスト commons(アーティスト統一ID)**など

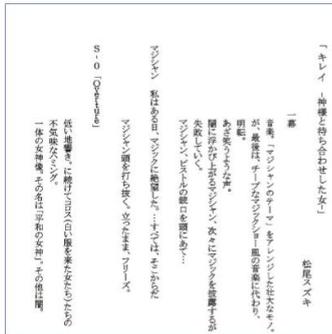
上: 内閣府知財本部「デジタル時代のコンテンツ戦略」(22/1)より
 右: アーティスト commons 資料より。ACID 発番数 25,008 (21/1)

非許諾／許諾モデルの活用：舞台映像、戯曲



緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化事業 (EPAD) <https://syueki5.bunka.go.jp/>

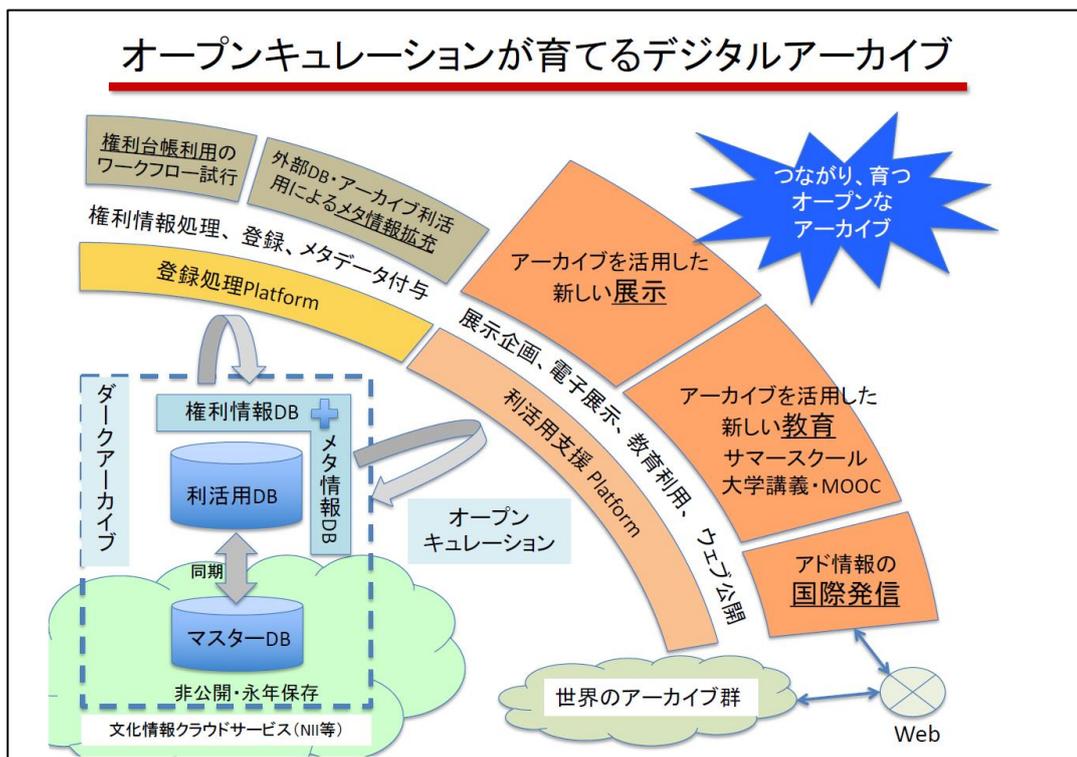
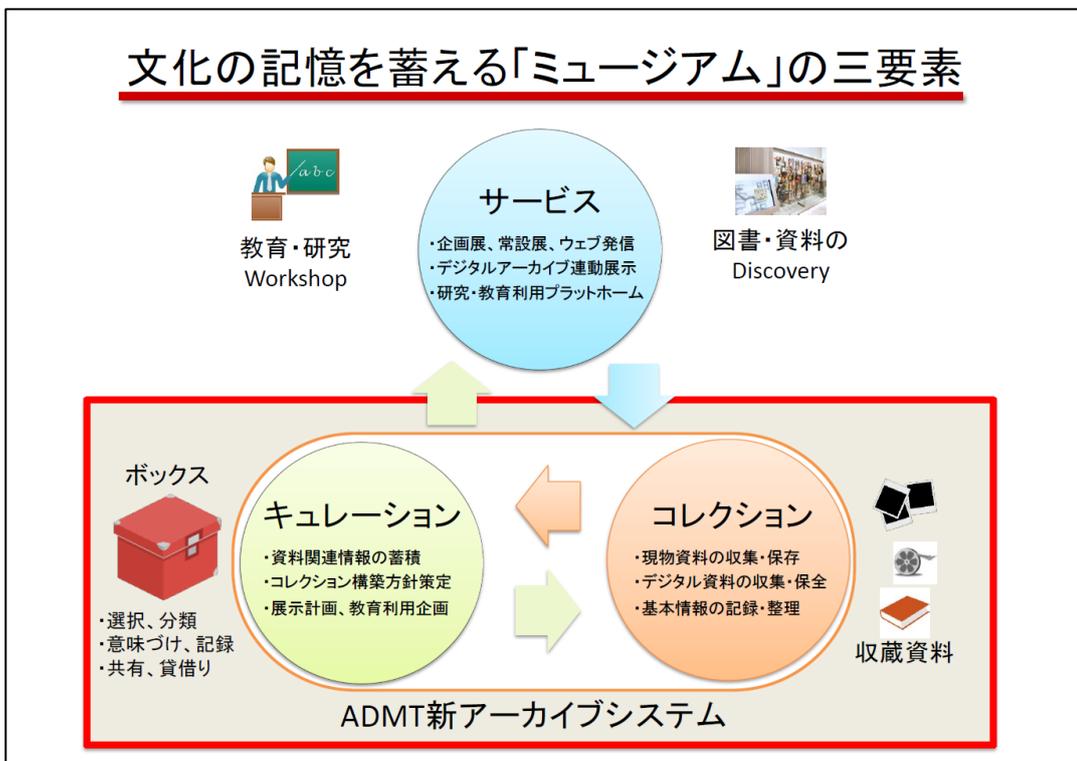
- ・【第1期】過去の舞台映像約1300本を収集⇒早稲田演博にてデジタルアーカイブ化・検索・メタデータ表示・館内非営利上映(⇒非許諾)
- ・権利処理可能なものは専従チームが権利処理をサポートし、U-NEXTなどで商用配信(⇒許諾)
- ・戯曲553本を劇作家協会にてデジタルアーカイブ化・検索・ダウンロード可能化(⇒許諾)



②高野明彦氏資料

https://drive.google.com/file/d/1EII4_UGlybtaLXUaaPm5gGZHPfIZOb_f/view?usp=sharin

g



8.2 共催セミナー（オンライン）

VIPO と共催により、有料のテレビドラマ制作セミナーを開催した。

放送局や映画会社からの参加も多く、海外展開などのビジネス的な話題も多いセミナーである点が、他のイベントと異なる点といえる。

- ・日時：2022年1月13日
- ・題名：「テレビドラマ制作セミナー～これからの日本のテレビドラマづくりに必要なこと～」
- ・講師：水橋文美江（脚本家）
 樫山裕子（日本テレビ放送網（株）ゼネラル・プロデューサー）
 モデレーター・さらだたまこ（日本放送作家協会理事長）

8.3 展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年4回を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

- ① 2021年4月～6月 『熱き男たちの群像～刑事ドラマと「石原軍団」』
- ② 2021年7月～9月 『夏だ！アツいぞ！スポーツ・スポ根！』
- ③ 2021年10月～12月 『勸善懲悪！ お茶の間を沸かせたテレビ時代劇』
- ④ 2022年1月～3月 『特撮ヒーロー 光の国から永遠に・・・！』



第9章 デジタル脚本ミュージアム構想について

バーチャルな脚本ミュージアムを目指し、5つの活用・展開のポイントを検討したい。
ミュージアム構築の基礎研究として、2023年（令和5）から5年間の調査研究を想定。
ラジオ放送開始100周年の2025年に一般公開を行い、3年間で完成を目指す。

① 自由に脚本の本文が読める「デジタルミュージアム」

昭和期はテレビ黄金期といわれ、日本の脚本はアジア諸国から手本とされたが、いつしかその地位は逆転。日本のテレビ文化の復権を目指しオリジナル脚本に触れる機会を提供する。

- ・ミュージアムでは300作品を目標に、脚本の公開を目指す。
- ・脚本と映像を対比する新しい展示／過去の展示記録をデジタル展示
- ・名作の裏話などのオーラルヒストリーや対談を公開

様々な側面から脚本に触れる、バーチャルなデジタル脚本ミュージアム構築を目指す。

② 放送や脚本の専門家（放送アーキビスト）の育成

海外では映像アーカイブやライブラリーで専門のアーキビストが活躍。

脚本家志望者の修業の一環として、脚本のスペシャリストを育てる。

脚本収集のみならず、適切に資料分類・整理できる専門家の養成を検討。キーワードの抽出やあらすじ作成やオーラルヒストリーのインタビューを担当するなど人材を育成する。

また留学生の協力により、翻訳校正の実施などを検討する。

③ 原作としての脚本の国際発信

脚本をテキスト化し「原作」として扱い、英訳と共に公開する。

あらすじを作成し、多言語化して国際発信を目指す。

ジャパコンテンツカタログ等との連携を検討したい。

④ 教育利用や回想法での活用研究

メディアリテラシーや創作ワークショップとしての教育利用

認知症予防等の「回想法」を映像アーカイブ等と共に研究を行う。

NHK回想法ライブラリーをモデルに新たな取り組みの試行をモデルに検討したい。

⑤ 地方創生（観光など）における活用提案

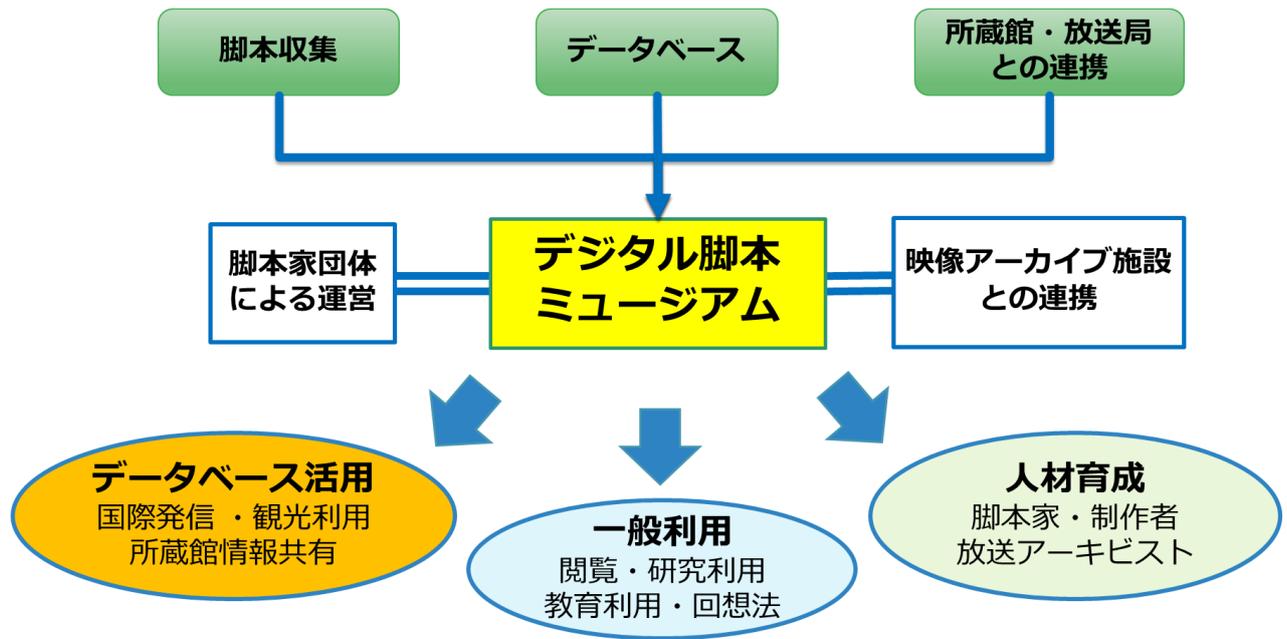
アニメのみならず、聖地巡礼の一例として「脚本」を活用。

脚本関連資料を所蔵するミュージアムや資料館の地域資料との連携を検討する。

上映トークイベントや映像ワークショップ、回想法などを各地で展開する。

所蔵間連携により複本の情報を共有する方法を検討したい。

「デジタル脚本ミュージアム」のイメージ



脚本アーカイブズ活動は、文化庁、NHK、日本民間放送連盟、放送文化基金、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会、国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、国立映画アーカイブ、早稲田大学坪内記念演劇博物館、映像産業振興機構、放送ライブラリー、NHK アーカイブス、NHK 放送博物館、法政大学、日本大学芸術学部ほか多くの皆様のご協力とご支援により支えられています。心より感謝申し上げます。

令和4（2022）年3月31日発行

発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆

石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル5階
一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021
Email : nkac@hosakkyo.jp <http://www.nkac.jp/>

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。



本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した令和3（2021）年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。